

エゾスミレの北海道自生と和名考

札幌市 松井 洋

はじめに

スミレ科スミレ属スミレ節ミヤマスミレ亜節のエイザンスミレ *Viola eizanensis* (Makino) Makino は日本固有種のスミレである(秋山 2011)。別名はエゾスミレという (Akiyama et al. 2007)。和名の由来についてエイザンとは比叡山の別名の叡山の意で「叡山堇」、エゾは蝦夷の意で「蝦夷堇」と漢字表記される。蝦夷は北海道を意味するので、エゾスミレという別名があることは北海道に自生していると考えるのが順当である。井波(1966)によるとエゾスミレは北海道奥尻島に分布すると、分布図付で記載されている。ところが今日、奥尻島の植物相の文献等 (Tatewaki. 1940, ほか) に当たってみるが島に自生しているという記録は見当たらない。一方、エゾスミレは多くの植物図鑑類によると本州、四国、九州に分布し、北海道には分布していないとされている (Akiyama et al. 2007, ほか)。牧野 (1989) にはエゾスミレというが蝦夷 (北海道) には分布しない。おそらくエイザンスミレが訛ったものではないかと考える、とある。

なぜエイザンスミレの別名に、北海道に自生するか不確かな点があるスミレが、エゾスミレと呼称されるのか考察した。

エゾスミレの初出

エイザンスミレの別名にはエゾスミレの他にチョウセンスミレ、カクレミノ、胡堇草 (艸)、

オオスミレ、フウクスミレ、サツマスミレ、サツマシメリ、カクレガサ、胡堇菜とある。これらエイザンスミレといわれる和名の初出に注目して、江戸時代から明治末頃までの文献を引用し紹介する。なお漢文は横書きにしたので返り点は除き、組文字は1行に直し、一部句読点は筆者が付けたところもある。下線の挿入、括弧内は筆者が付けた。

(1) 毘留舎耶谷纂輯. 1723 (享保 8) 年稿本, 1731 (享保 16) 年序. 『東莠南畝識』. 三卷. 磯野 (1995) によると 随所に小野蘭山の朱筆があるといい、ここでは朱筆の個所はゴシック体にした。

《第一巻》(それぞれの丁に以下の3種が描かれている)

- ・萱 正月下、二月上旬。
- ・鹿蹄 萱花似堇薄紫又白色 葉短丸堇ヨリ先ハヤシ? 二月中有花 卯月上旬實俗云一葉草也 堇菜ノ属 ヒナブキ

・堇草 紫花地丁 スモトリバナ

《第二巻》(和歌とスミレ5種が一丁に描かれている)

「賤が家の檐の氷柱ハ徒らけ連ど 雪間のすみれさけるいろいろ」

・堇 三月土用 紫花地丁 スミレ

・朝鮮堇 三月土用薺 胡堇艸 (註: 白花. 図1)。(朝鮮堇は初出、胡堇艸は後日の書込みなので初出にできない)

・黄萱花 三月上旬寛保變花 黄花堇菜 キスミレ

・白萱花 三月上旬 **堇菜 コマノツメ**

・紫萱花 初春至李春 **堇菜 コマノツメ**

(2) 伊藤伊兵衛政武著. 1733 (享保 18) 年刊. 『地錦抄附録』. 四巻.

《巻之一 草花の部》

・^{おほすみれ}**大堇草** 花形すみれ草に似て大りんうす白く紫の筋あり 葉に切り込のまた有り 二月咲 此種蝦夷が島より来るとて^{えぞしま}ゑぞすみれ 共云ふ (図 2)。(大堇草とゑぞすみれは初出である)

(3) 橘 保国著. 1755 (宝暦 5) 年. 『絵本野山草』. 五巻五冊. 別名は『画本野山草』ともいう.

《巻之五》

・すみれ草 又三国草 大すみれ ^{きんさい}**堇菜**
^{せんとう}**箭頭草**

富貴すみれとも かくれみのともいふ。葉のかたち、花つるのごとくにて、きれふかく、葉やわらかに小葉也。茎紫色、花白く、すみれのごとき花さく。此せうにて、花葉かわりたるもの三種有。葉、ほそながきものあり、丸葉あり。まるきを、つぼすみれといふ。花に、むらさき、白あり。みな^{すみれ}地丁也。又、外に三国草とよぶ草有。所々にて、名のかはる草もあれば、別の三国草といふ草、いつれを云か、いぶかし。花、三月より八九月迄咲。(富貴すみれ、かくれみのは初出である。なおウコギ科に同名異種のカクレミノがある)

(4) 松岡恕庵遺稿. 1759 (宝暦 9) 年刊. 『用葉須知』. 後編四巻, 続編三巻は 1772 (安永元) 年序, 1776 (安永 5) 年刊. /この他に正編五巻(享保 11 年版)と後編正誤二巻(明和 2 年版)がある。

《後編 巻之一 草部》

・紫花地丁 スミレナリ。岐葉ノモノヲ朝鮮スミレト云う、種樹家ニカクレミノト云フ。又深紫ノモノ、淡白ノモノ、蔓生ノ者、白花ノモノアリ。

《続編 巻之一 草部》

・紫花地丁 後編ニ出ワ和方中^{コマヒキ}ノ駒引草是ナリ。

(5) 平賀源内著. 1763 (宝暦 13) 年刊. 『物類品隲』. 六巻六冊.

《巻之三 草部》(次の二種がある)

・紫花地丁 一名堇堇菜。和名スミレ。又スモトリクサ云。二種有。

○特生ノモノアリ。東璧(=李時珍)曰ク。处处有之。其ノ葉似柳ニ而微細。夏開紫花ヲ結角ヲ。平地ニ生スル者ノ起莖ヲ。ト云モノ、今田野多アリ。花色百余種ニ及ブ。

○蔓生ノモノアリ。東璧曰ク。溝壑ニ生スル者起蔓ヲ、ト。和俗ヤブスミレト称スルモノ是ナリ。葉短シテ細蔓ヲ生ズ。花小ナリ。是レ亦花色数十種アリ。深黄花ノモノアリ。奇品ナリ。己卯主品中、余具之ヲ。

・胡堇草 和名エゾスミレ。頌(=蘇頌)曰ク。枝葉似小堇菜ニ。花紫色似翹軺花ニ。一枝七葉出ルコト兩三莖。ト云モノ是ナリ。处处深山中ニ産ス。(胡堇草は初出である)

(6) 小野蘭山著. 1801 (享和元) 年. 『常野採葉記』.

《十一日北條ノ宿ヲ発シテ筑波山ニ至リ本堂ヲ経テ男体山女体山ニ上リ東北ニ下ル》

・胡堇草 エイザンスミレ (エイザンスミレは初出である)

・萱 スミレザイシン

・匙頭菜 紫背ノスミレ

(7) 小野蘭山著. 1803(享和3)年 - 1806(文化3)年完成. 『本草綱目啓蒙』. 四十八巻. /重訂版の重訂本草綱目啓蒙は1847(弘化4)年刊.

《巻之十二 草之五 湿草類下》

・紫花地丁 スミレ和名抄 ヒトヨグサ古歌
ヒトバグサ同上 コマヒキグサ筑後 京ノウマ筑前 トノウマ同上 通泉草モ肥前ニテトノウマト云同名ナリ トノウマ薩州 スモトリグサ京師 スモトリバナ同上 カギトリバナ仙台 カギヒキバナ同上 キハヤウグサ泉州 堺 アゴカキバナ越後 カギバナ予州 讃州 [一名] 董董菜救荒本草 金芹菜物理小識 草角子山東通志

随地皆アリ。葉長ク叢生ス。葉似柳ト。集解ニモ云ウ。陽地ニアレバ春早ク正月ヨリモ花ヒラク。深紫色又浅紫花、白花ノモノアリ。葉形花色ト地ニ因テ各異ナリ。一種円葉ノ者アリ。又数品アリ。草生、藤生ノ異アリ。総ジテ、コマノツメト云。古歌ニ、ツボスミレト云。コレ董菜ナリ。又一種黄花ノモノヲ、キスミレト云。即董菜ノ一種ナリ。加州白山、和州芳野等ニ産ス。葉形円カニシテ、尖鋸齒アリテ光沢ナリ。花ハ黄色、五弁ノ中一弁紫黒色ニシテ光アリ。又一種叡山スミレアリ。葉形アサモミチノ葉ニ似テ、大ナリ。花ハ淡紫色。即雑草類ニ載スル所ノ胡董草、コレナリ。一種紫背ノスミレアリ。救荒本草ニ載ル所ノ匙頭菜ナリ。以上二品ミナ幽谷ニ生ズ。

《巻之二十二 菜之一 葷辛類》

・董 ハタケゼリ

陸生ノ芹ナリ。食用ノ、ミツバセリモコノ一種ナリ。恭説ノ董菜ハ、円葉ノ紫花地丁ナリ。コマノツメト呼。数品アリ。葉円ニシテ尖リ、^{ドクダミ}蕺草葉ノ如ニシテ鋸齒アリ、又円ニシテ尖ラザル者アリ。大小異形ナル者一ナラズ。花ニ深紫、淡紫、白色ノ別アリ。形ハ皆紫花地丁ニ同ジ。又蔓生ノ者アリ。コレニモ円葉アリ、長葉アリ。花ハ皆淡紫色ナリ。禹錫ノ説ハ紫花地丁ナリ。湿草類ニ本条アリ。時珍ノ説ニ黄花ナル者ヲ即毛芹也ト云ハ非ナリ。毛芹ハ毛^{ウマノアシガタ} 苳ナリ。大観本草ニ董黄花害人云ヲ優ルトス。是、キケマンナリ。[一名] ウバコロシ土州 ヲバコロシ同上 ヘビニンジン江州 モハチドリ江戸 花戸 ヒトコヘヨボリ勢州 ワウキン 此草ハ路旁樹陰或ハ垣砌ノ間ニ多ク生ズ。四時枯ズ。苗ハ紫^{イシガキ} 董ニ似テ白色ヲ帯。コレヲ断バ黄汁出、甚臭気アリ。花モ紫董花ニ異ナラズシテ黄色ナリ。時ナラズシテ常ニ開。大毒アリ。

《巻之十七 草之十一 雑草・有名未用》

・胡董草 エゾスミレ エイザンスミレ サツマスマミレ カクレガサ オホスミレ サツマシメリ加州 深山幽谷ニ生ズ。葉に五岐深齒アリテ、アサモミチノ葉ノ如シ。数葉一根ニ叢生ス。夏已後葉ノ形変ジテ兩岐トナル。春時花ヲ開ク。淡紫色。形状紫花地丁花ニ同シテ大ナリ。実ノ形モ同ジ。ソノ茎兩枝ヲ対シ分ツヲ異ナリトス。翹軛花ハ鼠尾草^{タムラソウ}花ナリ。花桑柴炭ハ、サハグハノ炭ナリ。(サツマスマミレ、カクレガサ、サツマシメリは初出である)

(8) 小野蘭山著. 1804(文化元)年. 『駿州勢州採葉記』. また『勢州採葉記』という写本(1859年)がある.

《二十五日龍爪山ニ登ル 三枝菴ヨリ一里行
テ立石アリ 拝殿マデ三十六町ト書ス 皆
柴山ニシテ珍草ナシ 山高ク石多ク甚ダ嶮
危ナリ 拝殿ヨリ五六町奥絶頂ニ龍爪権現
ノ社アリ 此間五六町八大杉ノ並木アリテ
深山ナリ》

・胡堇艸 エイザンスミレ

・萱 スミレザイシン (二十四日にも萱 スミレザイシン、とある)

(9) 水谷豊文著. 1809 (文化6) 年・1825 (文政8) 年. 『物品識名・同拾遺』四冊・一冊.

・ツボスミレ 堇菜一種

・エゾスミレ カクレミノ 胡堇草

・ミヤマスミレ 匙頭菜救荒本草

・スミレ スモトリクサ 紫花地丁 堇堇菜
救荒本草

・スミレサイシン 萱周禮

《拾遺》

・タチスミレ スミレ 堇々菜一種 茎ヲ抽テ高五六寸白花ヲヒラク

・コテウスミレ スミレ 堇菜一種

(10) 岩崎灌園著. 1828 (文政11) 序, 1830 (天保元) 年刊. 『本草図譜』. 九十六卷.

《卷十七 二十》

・紫花地丁 しくハちてう すみれ和名抄

又ひとハぐさともいふ是ハ長葉のすみれなり 原野向陽の地にあり 春月生ず 葉ハ車前に似て狭く葉の間に紫碧花色の花を開く 五辨形鳥頭に似て小なり又紅紫色の物 白花の物あり 是を白花地丁本草彙言 と云 又紫白雑色なるものあり 實の形小き瓜の如く熟すれば三ツに裂て中に細黒子あり

・一種 つぼすみれ

又こまのつめともいふ 原野に多し 春月宿根より生ず 葉ハ細辛に似て小さく一根叢生し葉の間小花あり 淡紫色形長葉の物と同じ 実も似て円し 葉中に紫色の筋あるものあり 此類皆堇々菜救荒本草 なり

・一種 みやますみれ

深山に生ず 葉の背紫色なり 稍長葉の物もあり 花ハ淡紫色?

・一種 亀甲すみれ

葉円く小さく亀甲紋あり 花淡紫色なり 又御紋すみれと云あり 葉大にして賀茂あふいの如き紋脈あり

《卷十七 二十一》

・つるすみれ 枝多く茎長く蔓の如し

白花のもの 飛驒の産

白花 江戸の産

・一種 きすみれ 加州白山に産し 形状つぼすみれに似て葉に光澤ありて花黄色なり

・一種 ひめふき 山野陸地に生ず 葉ハ杜衡に似て軟にして微毛あり 實ハすみれと同じ

・一種 ゑぞすみれ 京の叡山にあり 葉に花叉多く鳥頭に似る 背紫色花淡紫色 又葉に花叉少く花白花のものあり

《卷十七 二十二》

(あふいすみれ ゑぞすみれ ゑぞすみれ白花) の図あり (図3)

・一種 オランダ ウエイマン 泰西の書物印忙に載るすみれの図なり 本邦いまだ此品を知らず (註: 図はパンジーである)

(11) 飯沼慾斎著. 1856 (安永3) 年. 『草木図説 草部』. 二十卷.

《卷之十七 第六目 五雄蕊擁一柱》(エゾ



図1. 『東秀南畝識』より、朝鮮薑 三月土 用菽、
胡董艸。(図の右下、白花)



図3. 『本草図譜』より、糸ぞすみれ(右下)、糸ぞすみれ 白花(左下)



図2. 『地錦抄附録』より、大すみれぐさ、
糸ぞすみれ草。



図4. 『草木図説 草部』より、カクレガサ エゾスミレ
胡董菜。(牧野はヒゴスミレ ナルガ如シ、という)

スミレのみ記載文を紹介し、他種は割愛する)

- ・スミレ スモトリバナ 地丁
- ・蝦夷産スミレ
- ・オホ葉スミレ スミレサイシン 萱
- ・カクレガサ エゾスミレ 胡蘂菜
深山ニ生ジ、原野ニアルヲ不見。地丁ノ異種ニシテ花葉共ニ図ノ如ク一家ノ殊標アリ。生殖部ニアツテハスミレノ常態ヲ具ス。産地ニヨツテ葉ノ欠刻ノ形種々アリテ花戸種々ノ名ヲ下ス。(胡蘂菜は初出である。 図 4.)
- ・タチスミレ
- ・ツボスミレ コマノツメ 蘂菜
- ・黄花ノコマノツメ

『本草図説 草部』は田中芳男・小野職愨により1874(明治7)年に新訂版が、牧野富太郎により1907(明治40)年~1913(大正2)年に増訂版が出版されている。記載

種名に変更があるので表にまとめた。

(12) Siebold, Ph. F. 1832 (天保3) - 1882 (明治15). 『Nippon』.

《Inhalt der siebenten abteilung. Nippon VII.》
XVIII. Violaceae

63. *Viola canina* L., Komeno tsume L., v. s., K., AB. Genus in Asia ac America sept. repandum. (註: Komeno tsume はママ)

64. *V. dissecta*, Ledeb., Jezo sumire J. v. s., M. S., S., fragmenta quoque adsunt *V. palmatae* ac *pedatae*, AS. (註: = *dissecta*)

65. *V. Motokina*, A., v. s., M.S., モトキヌ

66. *V. Patrini*, D.C., Sumire J., v. s., S.

【訳文 『日本』 第6巻による】

63. ツボスミレ *Viola canina*, L. (コマノツメ) J, 乾、カムチャツカ、アメリカ北部、アジアおよびアメリカの品種は9月に開花する。

64. エイザンスミレ *V. dissecta*, Ledeb. (エ

表. 『本草図説 草部』新旧名称対照

| 原版 | 新訂版 | 増訂版 |
|----------|----------------------------|------------------------------------|
| スミレ | スミレ | スミレ |
| スモトリバナ | 又 スモトリバナ | スモトリバナ |
| 地丁 | 紫花地丁 | 紫花地丁 |
| | コスミレ | コスミレ |
| 蝦夷産スミレ | エゾスミレ | エドスミレ エゾスミレ |
| オホ葉スミレ | スミレサイシン | スミレサイシン |
| スミレサイシン | 萱 | 萱 |
| 萱 | | |
| カクレガサ | エゾスミレ | エゾスミレ |
| エゾスミレ | 又 カクレミノ | カクレミノ |
| 胡蘂菜 | 胡蘂菜 | エイザンスミレ 胡蘂草 |
| タチスミレ | タチスミレ | タチスミレ |
| ツボスミレ | タチツボスミレ イ | タチツボスミレ イ |
| コマノツメ | 蘂菜 | |
| 蘂菜 | ツボスミレ ロ | ツボスミレ ロ コマノツメ 蘂菜 |
| 黄花ノコマノツメ | キバナノコマノツメ イ キバナノコマノツメ ロ | キバナノコマノツメ イ イチゲクスミレ ロ イチゲスミレ |

ゾスマレ) J. 乾、水谷助六、シベリア、断片的には北アメリカに自生する *V. palmatae* または *pedatae* に近い。(註: = *dissecta*)

65. *V. Motokina*. 乾、水谷助六、「モトキヌ」A。

66. シロバナスマレ *V. Patrinii*, D.C. (スマレ) J. 乾、シベリア。

(13) 宮部金吾著. 1884 (明治 17) 年. 『北海道志』35 卷 25 冊. 大蔵省.

《卷之三十四物産 植物 堇菜科》

・胡堇菜 「エゾスマレ」又「カクレミノ」深山中ニ生ス。

・紫花地丁 「スマレ」又「モトリバナ」。(註: = *モトリバナ*)

・オホバナノキスマレ 「モトキナ」室蘭鷺別、福島、山中等ニ生ス。葉大ニシテ花黄ナリ。

・堇菜 「タチツボスマレ」多ク山野林中ニ生ス。

・オホタチツボスマレ 叢林中ニ生ス。堇菜ニ似テ頗ル大、高尺餘ニ至ル。葉大ニシテ卵圓状心臟ノ如ク、上端漸ク細小、托葉亦最モ著大、花ハ淡紫色ナリ。

・アギナシ 札幌、函館、三石其他ニ生ス。花白クシテ小ナリ。葉ノ形腎臟ノ如ク或ハ三角形ヲナス。

・三色スマレ 一名遊蝶花、洋種ナリ。多ク家庭ニ移シ種ユ。

考察

エイザンスミレを標準和名として、別名は 10 語彙ある。これらの呼称の初出を年代順にすると、朝鮮堇 (1731)、大堇草・蚤ぞすみれ (1733)、富貴すみれ・かくれみの (1755)、胡堇草 (1763)、エイザンスミレ (1801)、サツマスマレ・カクレガサ・サツマ

シメリ (1803)、胡堇菜 (1856)、となる。

胡堇草ないし胡堇菜は、『中国植物志』によると、62. 南山堇菜 (東北師範大学科学研究通報) 胡堇草 (図経本草) 胡堇菜 (中国植物図鑑) 細芹叶堇 (拉漢種子植物名称) 図版 17: 6-10. *Viola chaerophylloides* (Regel) W. Beck. とあり、和名ナンザンスミレの別名に当てている。

朝鮮堇は漢名由来と考えると、同書によると 朝鮮堇菜 (東北師大科研通報) 図版 17: 1-5. *Viola albida* Palib. とあり、和名はコマスマレという。この種は、日本の分布は温帯: 九州 (山地にまれ)・朝鮮 (北村・村田 1975)、とあるが、現在は日本には自生していないとされている。

スマレ類の一部は薬用として使用されている。『新訂原色 牧野和漢薬草大図鑑』のニオイタチツボスマレの【その他】の項に、日本では古くから胡堇草の名でエゾスマレが薬用として知られる。止疼、喘息などの緩和に用いられていた。なお胡堇をあてるのは誤りとする説もある、とある。牧野図鑑の 6 版 (1948) に「えぞすみれ 漢名 胡堇草 (誤用)」との記述がある。

カクレミノはウコギ科で標準和名として呼称されている。ウコギ科の初出は 1827 (文政 10) 年 (磯野 2009) でエイザンスミレの別名よりはかなり後のことである。

サツマスマレの名称は、*Viola diffusa* × *V. verecunda* ツクシスマレとツボスマレ (ニョイスミレ) の異節間交雑種として、呼称されている。

サツマシメリの呼称は、加州いまの加賀国 (石川県南部) の地方名である。この他のエ

イザンスミレの方言名には、えーざんすみれ 和歌山、たいがくすみれ 和歌山 (伊都)、だいがくすみれ 和歌山 (伊都)、にんじんすみれ 長野 (佐久)、のこぎりすみれ 和歌山 (伊都) がある。

エゾスミレの初出は『地錦抄附録』、1733 (享保 18) 年で、蝦夷が島より来る、とあるので、エイザンが訛ってエゾになったという説に根拠はない。

エゾスミレが北海道に自生している記載は、Siebold『Nippon』、宮部金吾『北海道志』、井波一雄『日本スミレ図譜』について紹介したが、さらに次の記載がある。

牧野富太郎・根本莞爾『東京帝室博物館天産課 日本植物乾腊標本目録』(1914) に、*V. dissecta* Ledeb. var. *eizanensis* Makino 北海道 (8531)、下野日光 (12676)、上野草津 (8529)、武蔵小河内 (8528)、近江比良山 (16253)、伊豆 (12673)、伊予久満 (8527)、とある。これによるは北海道の詳細な地方名の記載はないが、採集された押し葉標本が現在の東京国立博物館に収蔵されている、ことになる。

Kudo. Y. 『The Vegetation Yezo』(1925) に、*Viola eizanensis* Makino Provs. Ishikari and Teshio +, Honsyu +, Shikoku and Kyushu +, Korea +, Manchuria, Amur and Ussuri rigion +, China +, Siberia +, とある。+は分布域を示し Provs. Ishikari and Teshio にあるという。この頃の Isikari は石狩国、Teshio は天塩国のこと、おおむね今日の石狩・空知・上川および留萌管内を含む範囲のこと、ここに自生するとある。今日、エゾスミレは日本固有種なので、

国外の分布域についてはケナシマンシュウスミレ *V. dissecta* の変種と同種異名と考えられている、と推定する。

牧野・根本『訂正増補 日本植物総覧』(1931) には、*V. dissecta* Ledeb. var. *eizanensis* Makino (I. C. 155—*V. chaerophylloides* Makino—*V. eizanensis* Makino in J. J. I. -5, 15) エゾスミレ エイザンスミレ カクレミノ 北海道・本州・四国・九州、とある。学名の synonym にはナンザンスミレと同種としている。

菅原繁蔵編『北海道植物名鑑』(1958) に、*V. eizanensis* MAKINO エゾスミレ 本・四・九 f. *candida* HIYAMA シロバナエゾスミレ、とある。凡例に道産植物の銘鑑につき道を全部省略した、とある。これによるとシロバナエゾスミレも自生することになる。

先に述べたが、井波 (1966) にはエイザンスミレ *Viola eizanensis* (Makono) Makino [分布] 北海道 (奥尻島)、本州、四国、九州、対馬 山地のやや陰湿地や北面の林下林縁の軽い土壤に生える、とある。さらに奥山 (1957) には えいざんすみれ (別名) えぞすみれ *Viola eizanensis* Makino [分布] 本州、四国、九州の山地の木かげに生える。分布図は 138 頁参照とあり、その分布図上には北海道奥尻島に●印が入っている。井山・奥山には北海道奥尻島にエゾスミレは自生している、ことになる。

村越 (1955) には、えぞすみれ 胡堇菜 (PL. 118) …… スミレ科 *Viola chaerophylloides* W. Beck. var. *eizanensis* Ohwi (異名) えいざんすみれ かくれみの [分布] 北海道・本州各地・四国・九州、とある。

エゾスミレの北海道産の記載は『地錦抄附録』、『Nippon』、『北海道志』、『日本植物乾腊標本目録』、『The Vegetation Yezo』、『訂正増補 日本植物総覧』、『日本スミレ図譜』、『日本野外植物図譜』（奥山）、『原色植物大図鑑』（村越）に記述されている。

近年のエゾスミレの北海道産の文献記録を精査したが、今日では奥尻島の植物相の文献（Tatewaki. M. 1940 など）をみても、また北海道植物誌の文献（伊藤他 1994, 合田 2004 など）を閲覧しても、北海道に自生している記載は見当たらない。さらには北海道大学総合博物館植物標本庫（SAPS）と同大北方生物圏フィールド科学センター植物園標本庫（SAPT）を閲覧するがエゾスミレの標本は収蔵されていない。

これらのことから勘案すると、エゾスミレの北海道産とは栽培されていた種か、それとも野生種が自生していたとすると、すでに絶滅したのではないかと推定する。

さらには、吉中・松井（2009）はエゾセンノウ *Silene fulgens* (Fisch.) E. H. L. Krause、別名カラフトエンピセンノウについて報告した。その結論はエゾセンノウは北海道には自生していない可能性が高い。「蝦夷」とか「樺太」の地名を冠したのは、高橋（2004）によると、素性がはっきりしないまま、園芸店に登場。センノウの前に、勝手に“エゾ”や“カラフト”をつけた、という。エゾスミレの初出は『地錦抄附録』で著者は伊藤伊兵衛政武である。政武は伊藤家の5代目当主であり、武州染井で園芸を営み江戸一番の植木屋（小笠原 1999, 2008）と隆盛をきわめていた。もしかしたら北方の辺境の「蝦夷」

と称したのは、園芸植物のエゾスミレとして稀少価値を高めて販売する戦略だった、ということはないだろうか。異国の「朝鮮」名を付けたチョウセンスミレも同様の発想と考えられないだろうか。このことは、当時の園芸種の稀少性を高めるのに使用した商品名ではないかと思える。エゾスミレもエゾセンノウも今日では北海道の野生種の自生は確認されていない。

あとがき

Siebold の『Nippon』によると、水谷助六から北海道産エゾスミレの乾燥標本が送られている。この他、山田（2006）はシーボルトが入手した「江戸標本帖」に4点のスミレの標本があり、その1点にエイザンスミレが含む、とある。文献欄に紹介をするので一読されることをお勧めする。

漢和辞典で草部8画（土部8画の「堇」は別字）の「堇」を引くと、①すみれ、②そくづ 蒴藿、③むくげ 槿、④とりかぶと 烏頭、の4種の植物を含んでいる語彙であることが分る（諸橋 1984）。

生薬名の紫花地丁については、堇菜地丁、犁頭草りとう：スミレ科（Violaceae）のスミレ *Viola mandshurica* W. Becker、コスミレ *V. japonica* Langsd、ノジスミレ *V. yedoensis* Makino、ニョイスミレ *V. verecunda* A. Gray、ツクシスミレ *V. diffusa* Gingins、シロスミレ *V. patrinii* DC. など *Viola* 属植物の全草を乾燥したもの。1種のみの商品もあり、また2～3種が混入されているものもある、という（難波 1994）。

これらのことは「堇」や「紫花地丁」は複

数の植物を包含していて、一種の植物に名前が定まるには、かなりの時間がかかる。6世紀から約1,000年間、中国からきた本草書(薬学書)にある漢名に和名を当ててきたが、それは中国産の植物は日本にも自生するという前提のことである。もしも一致する植物が無い場合はさらに時間が必要になる。

スミレの呼称はスミレ科の唯スミレ *V. mandshurica* とスミレの総称であるスミレ属(類)として捉えられることがある。スミレ類として捉えた記載内容では、数種のスミレが入り混り幅の広い記述がなされている。

謝辞

標本閲覧を許可された北海道大学総合博物館植物の高橋英樹氏および北方生物圏フィールド科学センター植物園の東隆行氏にお礼申し上げます。

引用文献

- Akiyama S., Ohba H., and Tabuchi S., 2007. *Violaceae*. In: Iwatsuki K., Boufford D. E., and Ohba H. (eds.) *Flora of Japonica* 2a. 161-190. Kodansha, Tokyo.
- 秋山 忍. 2011. スミレ科 *Violaceae*、加藤雅啓・海老原 淳(編). *日本の固有植物*. 東海大学出版会, 東京.
- 毘留舎耶谷纂輯. 1731 序. *東莠南畝識*. 三卷. / 国立国会図書館デジタル資料で閲覧. 掲載した図版はこれよりダウンロードした.
- 中国科学院中国植物志編集委員会. 1991. *中国植物志* 第 51 卷. 科学出版社, 北京.
- 合田勇太郎. 2004. *北海道植物誌*. 中西出

- 版, 札幌.
- 平賀源内. 1763. *物類品隲*. 六卷六冊. / (翻刻) 平賀源内. (解説) 杉本つとむ. 1972. *物類品隲*. 八坂書店, 東京.
- 飯沼慾斎. 1856. *草木図説 草部*. 二十卷.
- 飯沼慾斎, (新訂) 田中芳男・小野職愨. 1874. 新訂 *草木図説 草部* 20 冊. 平林荘, 大垣(岐阜県).
- 飯沼慾斎, (再訂増補) 牧野富太郎. 1907-1912. 増訂 *草木図説 草部* 4 冊 成美堂, 東京.
- 井波一雄, (校閲) 前川文夫. 1966. *日本スミレ図譜—北海道・本州・四国・九州・琉球—*. 六月社, 大阪.
- 磯野直秀. 1995. 『東莠南畝識』: 18 世紀前半の動植物図譜. 慶応義塾大学日吉紀要・自然科学 18: 61-68.
- 磯野直秀. 2009. 資料別・草木名初見リスト. 慶応義塾大学日吉紀要・自然科学 45: 69-94.
- 伊藤伊兵衛政武. 1733. *地錦抄附録*. 四卷. / (翻刻) 伊藤伊兵衛政武. (解説) 北村四郎. 1983. *地錦抄附録*. 八坂書房, 東京.
- 伊藤浩司・日野間 彰・中井秀樹. 1994. *北海道高等植物目録Ⅲ*. たくぎん総合研究所, 札幌.
- 岩崎灌園. 1830 刊. *本草図譜*. / 岩崎灌園, (編纂) 飯田蔵太郎. 1916-1922. *本草図譜*. 本草図譜刊行会, 東京.
- 金太(増田繁亭)撰輯. 1827. *草木奇品家雅見*. / 国立国会図書館デジタル化資料で閲覧.
- Kitagawa M. 1979. *Neo-Lineamenta Florae*

- Manshuricae. J. Cramer, Germany.
 北村四郎・村田 源. 1975. 原色日本植物
 図鑑 草本編(中). 保育社, 大阪.
 Kudo Y. 1925. The Vegetation of Yezo. Jap.
 Journ. Bot. II (4) :209-292.
 牧野富太郎・根本莞爾. 1914. 東京帝室博
 物館天産課 日本植物乾腊標本目録. 三
 秀社, 東京.
 牧野富太郎・根本莞爾. 1931. 訂正増補 日
 本植物総覧. 春陽堂, 東京.
 牧野富太郎. 1948. 牧野日本植物図鑑. 北
 隆館, 東京.
 牧野富太郎, (改訂増補・編集) 小野幹雄・
 大場秀章・西田 誠. 1989. 改訂増補 牧
 野新日本植物図鑑. 北隆館, 東京.
 松岡恕庵遺稿. 1759. 用薬須知. 後編四卷
 と1772. 続編三卷. / (影印) 大塚敬節・
 矢数道明(編). 1980. 近世漢方医学書集
 成 55 松岡恕庵 用薬須知. 名著出版,
 東京.
 宮部金吾. 1884. 北海道志. 35 卷 25 冊. 開
 拓使編纂, 大蔵省. / (再版) 1892. 北海
 道志. 上, 下. 北海道同盟著譯館.
 水谷豊文. 1809・1825. 物品識名・同拾遺.
 四冊・一冊. / (影印) 水谷豊文. 1980.
 物品識名・附拾遺. 青史社, 東京.
 諸橋轍次. 1984. 大漢和辞典 修訂版 卷三.
 大修館書店, 東京.
 村越三千男, (補筆改訂) 牧野富太郎. (1955).
 原色植物大図鑑 2. 誠文堂新光社, 東京.
 難波恒男. 1994. 和漢薬百科図鑑 [II] 全改
 訂新版. 保育社, 大阪.
 小笠原 亮. 1999. 江戸の園芸・平成のガー
 デニング. 小学館, 東京.
- 小笠原左衛門尉亮軒. 2008. 江戸の花競べ
 —園芸文化の到来—. 青幻社, 京都.
 奥山春季. 1957. 原色 日本野外植物図譜 1.
 誠文堂新光社, 東京.
 小野蘭山. 1801. 常野採葉記. / (影印) 浅
 見 恵・安田 健訳編. 1996. 近世歴史
 資料集成 第II期 第七卷 採葉記(2).
 科学書院, 東京. (ここに「常野採葉記」、
 「駿州勢州採葉記」が収録されている.)
 小野蘭山. 1803. 重訂本草綱目啓蒙. 四十八
 卷. / (翻刻) 小野蘭山. 1991. 本草綱
 目啓蒙 1. & 2. 平凡社, 東京.
 小野蘭山. 1804. 駿州勢州採葉記.
 Siebold Ph. F. 1832-1882. Nippon. / フィ
 リップ・フランツ・フォン・シーボルト, (訳)
 加藤九祚・妹尾守雄・八城圀衛・中井
 晶夫・金本正之・石山禎一. 1979. シー
 ボルト『日本』第6巻. 雄松堂書店, 東京.
 菅原繁蔵(編). 1958. 北海道植物名鑑. 函
 館植物研究会, 函館.
 庄司信州(編). 2003. 江戸の植物画と現
 代活け花による 万葉の花. 学習研究
 社, 東京.
 橘 保国. 1755. 絵本野山草. 五卷五冊. /
 (翻刻) 橘 保国. (校訂) 平野 満, (解
 説)
 岩佐亮二. 1982. 絵本野山草. 八坂書房, 東
 京.
 高橋勝雄. 2004. 野草の名前 夏一和名の由
 来と見分け方一. 山と溪谷社, 東京.
 Tatewaki M. 1940. List of plants of the Island
 of Okushiri (I) & (II). Trans. Sapporo
 Nat. Hist. Soc. 16 (Pt.2) : 75-90. & 16 (Pt.3)
 : 105-116.

- 山田直毅．1997. 古書に見るすみれ(9) 18
世紀前半の動植物図譜『東莠南畝識』の
すみれ．すみれニュース, **80**:14-17.
- 山田直樹．2006. シーボルト入手の植物標本
帳 Herbarium Medici Jedoensis にある
スミレの標本．植物地理・分類研究 **54**
(1) :51-56.
- 山田直樹．2010. 小野蘭山とスミレ．小野蘭
山没後二百年記念誌編集委員会(編)．小
野蘭山, 351-366. 八坂書房, 東京.
- 八坂書房(編)．2001. 日本植物方言集成.
八坂書房, 東京.
- 吉中弘介・松井 洋．2009. 園芸種センノウ
の栽培—北海道産エゾセンノウの野生種
を探る—．北方山草 **26**:109-126.